

第5回 クラシエ 漢方講演会 i n 静岡 WEB中継 浜松サテライト会場

拝啓

時下、先生方におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。
この度、下記の要領にて漢方勉強会を行う運びとなりました。
ご多忙のところ誠に恐縮ですが、是非ともご参加頂きたく御案内申し上げます。

敬具

日時 平成 28 年 7 月 20 日 (水) 19:15 ~ 21:00

※ 当日はお弁当のご用意がございます。

会場 TKP浜松アクトタワー カンファレンスセンター カンファレンスルームC
浜松市中区板屋町111-2 浜松アクトタワー25F
TEL 054-413-0798

情報提供

19:15 「クラシエ漢方製剤のご紹介」

クラシエ薬品株式会社 医薬学術部

演題

19:30 「構成生薬の特徴から補剤を使い分ける」

座長

東新田福地診療院

院長 福地 康紀 先生

講師

つちうら東口クリニック

院長 川嶋 浩一郎 先生

主催 クラシエ薬品株式会社 中日本医薬支店 担当：宮本 康次
TEL：054-653-7586
Mobile：070-2189-7404

第5回 クラシエ 漢方講演会 i n 静岡
WEB中継 浜松サテライト会場

FAX：054-253-5763

御出席

御欠席

御施設

御芳名

川嶋先生より - 講演要旨 -

日本の夏は、猛暑と冷房という最も大きな温度差のある季節であり、日頃から体力のない人にとっては、環境温度の変化に体がついて行けずに夏バテしてしまうので、過酷な季節といえるのではないのでしょうか。

日本の夏は漢方治療に於いて最も補剤が注目される季節であろうと思います。

そこで、今回の漢方勉強会では、夏バテに限らず、漢方薬の補剤と呼ばれる処方の特徴と使い分けについて、もう少し深く学んでみたいと考えました。構成生薬から補剤の特徴についてアプローチしてみたいと思います。

具体的には、まず補陰、補陽、補気、補血、補津液（水）、補肝、補心、補脾、補肺、補腎の意味と代表的な生薬の働きと使い分けを知った上で、最も強力な補剤生薬の作業集団である

「人参」+「黄耆」+「白朮」を含むエキス剤について、「補中益気湯」「十全大補湯」「人参養栄湯」「加味帰脾湯（帰脾湯）」「半夏白朮天麻湯」「清暑益気湯」「大防風湯」と、白朮を茯苓に変更した「人参」+「黄耆」+「茯苓」の「清心蓮子飲」について処方イメージを明確にしたいと思います。

この処方の中から、さらに補腎効果の地黄が加えられている処方は、「十全大補湯」「人参養栄湯」「大防風湯」だけですので、補腎を加えることの意義と使い分けについても考えてみたいと思います。



川嶋 浩一郎 先生

1981年 筑波大学医学群医学類 卒業

1985年 筑波大学心身障害学系講師

茨城県立こども病院神経科非常勤（現在も継続）

1992年 西荻司ビルクリニック開設

1998年 つちうら東口クリニック開設、現在に至る

【会場案内】

